

個人として,学校としてできる事

西日本豪雨災害に思いを寄せる

今月の初めに西日本を襲った大雨は、「西日本豪雨」と呼ばれ、歴史的な大災害となってしまいました。7月17日現在で、死者216人、行方不明や連絡が取れない人は、少なくとも15人います。追い打ちをかけるように厳しい暑さが被災地を襲い、熱中症で搬送される方々も多数いて、各地で死者が出ています。そのような中、行政、民間企業、NPO、そして民間の方々の支援が活発に行われています。ボランティアの方々の支援活動も連日報道されています。

振り返ってみると、1995年1月17日、現代の日本ではこれまで経験した事のないような大災害に見舞われました。**阪神淡路大震災**です。皆さんが生まれるずっと前の事でした。当時、テレビで流れる阪神地方の悲惨な状況を見て、多くの小中学校で自然発生的に募金活動等が行われ、復興に貢献しました。日本中でこのような自発的な活動が行われたのは、とても希有なことでした。もちろん、小中学校だけではなく、高校、大学、日本中の地域、自治体等が支援に立ち上がりました。そして実際に現地に入り、支援活動を行った方々も数多くいました。この年を、日本では、**ボランティア元年**と呼ぶようになりました。その後、2011年3月11日、私たちの住む東北地方が大震災の被害を受けましたが、ボランティア精神は引き継がれ、多くの支援によって東北の復興は支えられました。その後の熊本地震、広島豪雨、九州北部豪雨、大阪北部地震等でも生かされ続けています。

東日本大震災では、私たちの長町中学校区、仙台市、宮城県全体、そして東北の各県が大きな被害を受けました。その時に、避難所等で活動、活躍してくれたのが、当時の中学生でした。お年寄りの安否確認、マンション等での支援物資の運搬、避難所での食料の配布の手伝い……。自らの家が被災しながら、避難所に駆けつけてボランティア活動を行ってくれた中学生も多数いました。

西日本豪雨関係のテレビ報道でも、避難所等で中学生が手伝っている姿を見かけます。報道に接する度に、頭が下がる思いと同時に、当時の事と重なり、心が痛みます。

現在、長町中学校では、防災モデル校(2012～14年)だった成果を生かした取組でもある「ともに!チーム長町プロジェクト」が根付いています。先日、長町駅前、小学校、商店街や南警察署の方々と連携して、あいさつ運動と募金活動を行いました。街ゆく仙台の方々に、積極的に募金にご協力いただいた事をうれしく思いましたし、成人の方々だけではなく、高校生からも協力いただいた事は本当に心温まる思いでした。あの時、大きな被害を受けた私たちができる事、それは、災害の記憶を風化させず、少しでも被災した方々に思いを寄せることだと思えます。それが「ともに!チーム長町プロジェクト」の原点でもあります。校内でも募金活動が始まり、とても頼もしく思えます。宮城県では、まだ時折大きな地震があります。皆さんのご家庭では、災害時の備えは大丈夫ですか。自らの命と家族が守られる事を第一に考え、そのうえで、人と助け合ったり、地域に貢献したりする態度が育まれていくことが望ましいと思えます。

被災された地域の復興が進んでいきますよう、そして、お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈りいたします。